

1960年代、ヨコハマ・本牧。今も引き継がれるあの時代の輝き
YOKOHAMA GRAFFITI ヨコハマ グラフィティ
 横浜タカシマヤ開店55周年記念 ザ・ゴールデン・カップスの時代展

会期:2014年8月13日(水)~25日(月)

会場:横浜高島屋ギャラリー(8階) 入場時間:午前10時~午後7時30分(午後8時閉場)

* 最終日25日(月)は5時30分まで(午後6時閉場)

入場料(税込):一般800円、大学・高校生600円、中学生以下無料

主催:「ヨコハマ グラフィティ」実行委員会

後援:神奈川新聞社、tvk(テレビ神奈川)、FMヨコハマ

協力:スタジオKグループ、アルタミラピクチャーズ、ダブルジョイレコーズ、ゴールデンカップ、ブギーカフェ

協賛:SGCゴールドショップ 横浜・日本橋・新宿

プロデューサー:キャシー中島

横浜高島屋では、2014年8月13日から25日のあいだ、横浜高島屋開店55周年を記念して「YOKOHAMA GRAFFITI ヨコハマ グラフィティ ザ・ゴールデン・カップスの時代展」を開催します。今から50年前のヨコハマ・本牧は、日本に駐留する米軍人とその家族らが暮らすアメリカンハウスが建ち並び、彼らだけが利用できる学校、銀行、教会、将校クラブなどの施設やPX(日用品販売店)、映画館、ボーリング場などが揃う、日本の中の“アメリカ”として1つの都市を形成していました。欧米の最新ファッションや車、直輸入のR&B音楽、映画でしか見たことがなかった食べ物があふれ、当時の日本の若者が憧れる先端文化を発信する街でした。今展では、1964年に誕生しヨコハマ・本牧スピリットを語る上で重要な文化拠点の1つだったクラブ「ゴールデンカップ」と、その専属バンドとして生まれ、後にスターの階段を駆け上がった「ザ・ゴールデン・カップス」の活躍を中心に、当時のヨコハマ・本牧の若者文化や流行のファッション、街の風景などの世相を写真や映像などで立体的に紹介します。また、当時の「ゴールデンカップ」の店内を再現し1960年代の音楽を体感していただきます。



ザ・ゴールデン・カップス*1
 (結成当時「ゴールデンカップ」にて)
 左より、
 エディ藩(ギター)
 デイブ平尾(ボーカル)
 ルイスルイス加部(ベース)
 ケネス伊東(ギター)
 マモル・マヌー(ドラム)

写真提供:アルタミラピクチャーズ

***1 ザ・ゴールデン・カップス**

1966年、デイブ平尾とエディ藩が中心となり、ケネス伊東、マモル・マヌー、ルイスルイス加部の5人で後の「ザ・ゴールデン・カップス」となる「平尾時宗とグループアンドアイ」を結成。クラブ「ゴールデンカップ」専属バンドとなる。

1967年、「ザ・ゴールデン・カップス」と改名。「いとしのジザベル」でレコードデビュー。

1968年、「長い髪の少女」が大ヒットし一躍スターとなる。

シングルは他に、1968年「愛する君に」、「過ぎ去りし恋」、1969年「本牧ブルース」、「ルシール」「蝶は飛ばない」、1970年「にがい涙」、1971年「人生は気まぐれ」。

1972年、沖縄でのステージを最後に解散。

グループには途中、ミッキー吉野、アイ高野、柳ジョージらが在籍し活躍した。

【報道関係者のお問い合わせ先】(掲載不可)

株式会社 高島屋 広報・IR室 吉岡 TEL:045-313-1570

広報代行:株式会社ブレインズ・カンパニー 担当:杉本・村山

TEL: 03-3568-3844 FAX: 03-3568-3838 E-mail: sugimoto@pjbc.co.jp

■ 展示構成

SCENE-1: ヨコハマグラフィティ

1960年代、米軍関係者住宅や彼らが利用する施設が建ち並ぶ、今は見ることができない本牧の街の風景を紹介。生き生きとした表情が見取れる当時の世相の写真などで立体的に構成。

SCENE-2: 伝説のナポレオン党

当時のヨコハマを象徴する遊び仲間の若者たちで作ったグループ「ナポレオン党」。日本にいながらアメリカ文化で育った彼らの姿をメンバーやメンバーの友人だったキャシー中島氏などの証言で振り返る。また、当時の彼らのファッションや乗っていたスポーツカーをミニチュアで再現。

SCENE-3: ゴールデンカップの時代

1960年代のヨコハマ・本牧文化の拠点の1つだったクラブ「ゴールデンカップ*2」。会場にバーカウンター、看板、ジュークボックスなど当時の店内を作り上げ、R&B音楽を楽しめる空間に。米国や日本の若者たちで賑わっていたライブ写真やゴールデンカップファンの著名人のコメントを紹介。

SCENE-4: カップス・オンステージ

「ゴールデンカップ」の専属バンドとして誕生し反骨精神を漂わせる独特の雰囲気と本場アメリカのR&Bを演奏するバンドとして人気となった「ザ・ゴールデン・カップス*2」。全盛期のステージを映像、当時のポスター、チラシ、メンバーゆかりの品などで構成。コシノジュンコがデザインしたステージ衣装の再現やエディ藩やルイズルイス加部のギター、ミッキー吉野のオルガンなどメンバーが実際に使っていた楽器の展示はファン必見。

SCENE-5: Forever60's

ヨコハマ・本牧にこだわり活躍する人気ミュージシャンを紹介。ヨコハマ・本牧のミュージックシーンにおいて今も兄貴として尊敬を集めるブルース&ロックミュージシャン「CHIBOW*3」。そして「CHIBOW」や「ザ・ゴールデン・カップス」が作りだしたヨコハマ・本牧音楽のスピリットを継承するミュージシャンとして、「昭和歌謡」や「R&B」などの影響を受けながら、独自の音楽を生み出している歌うメロディー・メイカー、クレイジーケンバンドの「横山剣」。本牧生まれ本牧育ちの兄弟を中心に結成され、サウンドクラッシュという音の闘いで本場ジャマイカ人をしのいで優勝するなど、世界的に活躍するダンスホール・レゲエ・サウンド・グループ「マイティ・クラウン」。注目を集めるヨコハマ・本牧音楽の今を伝えます。



米軍住宅の子どもたちとハウスボーイ
(撮影：奥村泰宏 写真所蔵：常盤とよ子)



ナポレオン党 右端：ナポレオン党リーダー小金丸峰夫氏、
女性中央：キャシー中島氏、右：故山口小夜子氏 (©N党)



ザ・ゴールデン・カップス (衣装デザイン/コシノジュンコ) 左よりエディ藩、ミッキー吉野、
マモル・マナー、ルイズルイス加部、テイブ平尾、ケネス伊東 (写真提供：アルタミラピクチャーズ)



CHIBOW



横山剣 (©Double Joy Records)



マイティ・クラウン

*2 ゴールデンカップ

1964年に本場のR&B音楽を聞かせるクラブとしてオープン。専属バンドとして「平尾時宗とグループアンドアイ」が演奏し本牧の米軍兵やナポレオン党などの間で評判となり毎夜客が入りきれないほどの人気店となる。現在も同じ場所でファンに愛され続けている。

*3 CHIBOW

1960年代、ザ・ゴールデン・カップスと共に横浜の2大バンドと呼ばれたブルース・ロック・バンド「パワーハウス」で活躍し現在も新しい音楽に挑戦し続けている。本牧の老舗アメリカンダイナー「BOOGIE CAFE」のオーナーでもある。